

第64号

令和2年(2020) 8月15日

発行人

NPO法人成田・里山を育てる会

成田・里山通信

理事長 富樫 武
電話 0476-27-3487
事務局 相原 亮司
電話 0476-35-1550

ホテル観賞・調査に参加して

6月7日、里山を育てる会の「ホテル観賞・調査」に参加しました。さつま芋植え付け等活動後であったため参加者は少なく、相原さんと知人5名、佐藤さん、賛助会員の金島さん親子に私の9名でした。

昨年が続いての参加ですが、台風の影響と国際医療福祉大学成田病院の開院に伴う景観の変化に驚きました。昨年は道路際まで樹木が覆っており、山際の真っ暗な中でホテルが乱舞していました。今年は台風で倒れた樹木が伐採され見晴らしは良くなりましたが、病院の照明が山の上部を照らしており明いのです。ホテルは山影の下部におり問題はなかったのですが、幾分少なく感じました。

生息地は約800m続く谷津田の向側の小川です。佐藤さんによると、昔民家があり泉が湧いていたそうです。利便性は悪いですが、幸いにも民家があった最奥部以外は耕作されており。谷津田を挟んで病院と反対側は我が「里山果樹園」です。こんなに近くでホテルが乱舞する環境が残されていることは大変ありがたいことです。これは水田を耕作し、山や小川を維持管理するか方々がいる事を忘れてはならないと考えます。

しかし、日本の農業を考えると憂慮すべき点が数多くあります。

グローバル化による農産物の輸入自由化、従事者の高齢化（65歳以上が6割）や人手不足は深刻で耕作放棄農地は年々増えています。

そのため、昭和40年カロリーベースで73%あった食料自給率は平成30年には37%まで低下しました。

また、少子高齢化に伴う労働不足補うため、外国人の技能実習生(移民)を農業に従事させています。

食料を外国に依存し、かつ、労働力まで外国に依存することはもはや日本そのものの崩壊です。半世紀前の古き良き農村の暮らしを知る者として、日本の姿が徐々に変わり(変えられ)、気がついてみたら全く異なる国になっていたということではないでしょうか。

ホテル観賞で前年との余りの変化に「現在の日本はこのままで良いのか」という疑問を抱く機会となりました。

武石 博賢



5月 6月 7月の活動&イベント

5月2日 花の回廊 自由参加 11名
花の回廊(取香川堤防遊歩道)小管橋-堀之内橋間両側斜面とサクラの小公園草刈り

今回は計画的に機械投入、ハンマーナイフ2台、旧型草刈り機(プロペラ回転)1台、斜面用草刈機(スパイダー)2台に加え6台の刈り払い機のフル稼働でした。

大型の草刈り機の能力は高く予定の区域外の場所まで草刈り出来た。

*作業準備のため始業前と終了後に機械運びは瀬戸さん任せ。

運搬に必要な軽トラックは長年にわたり佐藤建築の社用車を利用。あたり前のように利用させていただいていますが軽トラック無しでは私たちの活動に必要な道具は運べません。

また、こうした道具類の保管場所も佐藤さんのお願いであります。

*お二人の協力に感謝しております。

5月3日 果樹園 自由参加
共同農園 ジャガイモ芽かき 土寄せ
里芋植え付け(目出し済)
菜の花の種取り(来年のアグリパーク用種)
果樹園周辺草刈り

5月9日 アグリパーク 自由参加 11名
キンラン・ギンラン実態対調査
ツツジ植樹



5月17日 遊歩道 定期活動 12名
全体の草刈
毎年ながら春から夏の終わりまでは草との戦いです。
雨上がりの好天気、空気中の塵はなく何も遮る物がなく真夏のような太陽の下の作業は体力消耗が激しい。
*休憩と水分補給は私たちの合言葉です。

5月 6月 7月の活動&イベント

5月24日 アグリパーク 自由参加 13名
刈り残しの粟種刈り倒し 草刈り 竹林整備

*植樹した朴ノ木が大きく育ち見事な姿になってきた、早く大きな花が見たいものです(立てば歩めの親心)の心境です。

*昨年、サクラとサクラの間に植えたクヌギを間伐、その後に来た台風で周りの支えが無くなったサクラの木が倒れ林の中にぽっかり隙間が出来た。

陽当たりも良く風からも守られているせいかサクラもクヌギも切り株から沢山の櫟(ヒコバエ)が生えてきた。



朴ノ木 アグリパーク 5月24日

6月21日 花の回路 定期活動 16名

取香川堤防 小菅橋-堀之内橋間約1.5kmの両側の草刈り、成田市公園課設置のサクラとアジサイ小公園の草刈りを年間3回行っている。今回は第2回目の作業日。



取香川 花の回廊
草刈り 管理事業
NPO法人
成田・里山を育てる会

*午後さつま芋の補植と2班に分かれる

6月7日のさつま芋植え付け前後は日照り続きで苗の根付きが悪く枯れた、その部分の補植を行った。



6月6日 遊歩道 自由参加 10名

①竹林伐採地 今年生えたタケノコ退治。竹になる前のこの時期を逃さず実行。

②木道入口横の草も刈り取る好時期

*草(ヨシ、アシ) アシは悪しきに通じるので良しとも呼ぶようになった。



*6月の活動からサマータイムを採用。暑さの柔らかい時間から作業をはじめ、昼間の暑い時間をさける意味で今年から6月7月9月に実施(8月月は野外活動なし)。

6月7日 果樹園新圃場 自由参加 15名

さつま芋の植え付け 落花生播種

*今回も野外活動体験の児童参加がありました。お母さんと仲良く落果生の種まき 写真・右

*ホテル観賞会 自由参加 3名

新設の国際医療福祉大学病院脇(川俣地区) 詳細はP-1、武石さんのホテル観賞を

6月28日 アグリパーク 自由参加
朝からの雨で活動中止

アグリパークの山野草

ハルジオン・シロツメクサ（白詰草）・セイヨウタンポポ・フタナ（豚菜）

春になると、空き地や道端、至る所草花のオンパレード、毎年身近に咲いている花ですが、殆どどの花は名前が分かりません。

アグリパーク、果樹園、遊歩道の作業で毎回見ている山野草の中から最も良く見る花を4種を選んで紹介します。



ハルジオン（春紫苑）



シロツメクサ（白詰草）



西洋タンポポ



フタナ（豚菜）

名前の由来：

ハルジオンを漢字に直すと春紫苑、春に咲く咲くキク科の紫苑という意味。日本には1920年代に観賞用として持ち込まれた。農作物の生育を妨げるため厄介な雑草扱いられている。



原産国は北アメリカ。
*貧乏草、折ったり摘んだりすると貧乏になると言う地方もある。



ヒメジョオン

ハルジオンと名前も花もよく似たヒメジョオンがある、花弁の幅の違いで見分けられる。ハルジオン、ヒメジョオン以外にも近縁のものがあるので要注意。

名前の由来：

シロツメクサの和名は1846年オランダから献上品のガラス箱に詰め物として送られてきた。詰草白い花を咲かせるので（白詰草）シロツメクサになった。
*クローバーの方が知名度が高い。四葉のクローバーは幸運を招くと広く愛されてきた。



*シロツメクサは豆科シャジクソウ属でヨーロッパ原産の多年草。明治時代牧草として栽培された。繁殖力が高く抜いても根が残り、種も飛散し完全退治は困難。



シロツメクサの花で花冠を作ったことがあります。

名前の由来：

Dandelionは英語フランス語のDant de lionつまりライオンの歯を意味する。これを英語流に dandelion と言うようになった。また、葉のギザギザがライオンの牙を連想させるからと言う説もある。
*1904年アメリカから札幌農学校の教師が野菜として持ち込んだとされる。日本の外来種ワースト100に選定されている。
*原産はヨーロッパだが日本へはアメリカから持ち込まれた。
*キク科タンポポ属の多年草。



西洋タンポポの綿毛 果樹園で 6月1日

名前の由来：

フタナは豚菜と書く豚が好んでこの草を食べたため、フランス語でSalda de porc（豚のサラタ）と呼ばれ、それをそのまま和訳したことが（豚菜）の名前の由来とされる。
フタナとタンポポは花がよく似ていて区別しにくい。フタナの特徴は草丈80センチにもなる長身、これが見分けのポイントとなる。
*タンポポモドキの別名がある。



牛蒡の花 果樹園 7月13日



世界の農家は芸術家集団

人は十人十色で物の見方、考えは異なるので一概には言えない。旅先で心に残る景色が数多くあります。それは畑や田圃で作物が描き出す幾何学模様やパッチワークのような光景です。見る度に感じるのは農業はただ単に食糧生産だけではなく芸術品を作る芸術家に思えます。

北海道のジャガイモ畑、丘陵に広がる麦畑、(イギリス)、縦、横、斜めと行儀よく並んだオリーブ畑(スペイン)、見渡す限りトウモ

ロコ畑や大豆畑(アメリカ中西部)、一面の菜の花畑(ヨーロッパ大陸)。どれをとってもキャンバスに描かれた絵画そのものです。耕作者が意図するしないに関係なくどれを見ても芸術作品そのものです。

田植えの季節、白馬村で見た、頂きに雪の残る北アルプスが田圃に映しだされた風景は一人占めするには贅沢すぎるほどの作品でした。



コーンベルト 米中西部



後方 北アルプス 白馬村で

5月 6月 7月の活動&イベント

7月5日 果樹園 自由参加 16名

- 春に植えたジャガイモ堀り
- 里芋 落花生の手入れ
- 畑の周り草刈り
- *ジャガイモ堀には会員をはじめ賛助会員、野外体験の児童の参加もあった。
- *ジャガイモ堀に平行して里芋の除草土寄せ、落花生のマルチはがし、除草土寄せも行った。
- *さつま芋の畝間も耕運機で除草。
- *ジャガイモのあと地に黒豆を播種
- *菜園草刈り

今日の作業で除草土寄せと手入れされた畑は生まれ変わったようにきれいになりました。

7月10日 アグリパーク 自由参加 10名
アグリパーク菜園者の遊歩道両脇草刈り
植林地内草刈り



軽トラック一杯に積まれた作業用具
*瀬戸さんお疲れ様です



共同菜園 左からさつま芋、落花生、里芋

7月19日 遊歩道 定期活動 13名
里山の会で管理している植林地、竹伐採地草刈り、今年生まれの竹刈り倒し

7月25日 理事会 12名
これまでの活動、これからの活動、イベントの計画コロナ対策、チェーンソー講習会、自生植物の勉強会など討議

7月26日 アグリパーク 草刈り予定 雨天中止

5月	6月	7月
滑動& イベント参加者 延べ人数		
154名		